

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
1 総合学科の特長を活かし、GIGAスクール構想を踏まえた、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	進路指導 教務	【満足度指標】 総合学科の特長を活かし、科目選択や体験活動が生徒の進路実現に繋がっている。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ア) よくあてはまる (イ) ややあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない	(ア)+(イ)の% 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒・保護者)で調査する。	生徒 88.3% B 保護者 92.3% A	1年次生に対しては、卒業後の進路を意識させるために、2年次生からの系列選択について、進路学習を実施した。また、保護者に対しては、6月に本校の進路実績を具体的に示しながら、系列選択についての説明会を実施した。1年次生担任は各生徒の進路希望を保護者懇談会で確認している。 2年次生は、10月に次年度の選択科目を決定し、2月に保護者を対象とした進路説明会で、本校の進路状況及び進路実現に向けての保護者としての心構えについて、より具体的な説明を行う予定である。
	② 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。	教務	【満足度指標】 授業が分かりやすいと回答する生徒が増える。	授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	生徒による授業評価アンケートで調査する。	93.5% A	「授業が分かりやすい」との回答は93.5%であった。また「具体的取組」としてあげた「授業のねらいや流れが示され、振り返りの時間がある」の問いに対しては91.1%の生徒が同様に肯定的な回答をしており、方策が奏功し満足度指数の目標達成につながった。 さらに、これらのアンケート集計後、継続して生徒の授業に対する満足度や達成感を高く保つために、全教員が担当科目ごとに授業改善に向けた方策を策定している。
	③ GIGAスクール構想に則り、従来のICT活用に加え、Chromebookを活用した授業の在り方について研究を進める。	教務	【努力指標】 Chromebookを使って、学習効果の高い授業を行う教員が増加する。	年に2回Chromebookを使って授業を行った教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 (中間評価では1回の使用で評価する。)	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(教員)で調査する。	59.5% D	対象教員37名中、1学期に1回以上Chromebookを使用した教員は22名、1度も使用しなかった教員は15名であった。 夏季休業以降は実際に授業で使用する場面を想定した研修とICT機器に関する教員個々のスキルに応じた研修を実施し、県教員総合研修センターのGIGA出前サポートも活用しながら、Chromebookの活用を高めていきたい。
	④ 個別進学指導や朝学習(マナトレ)、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 各学年	【成果指標】 ア 国公立大学進学者数 5名以上 イ 私立大学および看護・医療系上級学校進学者数 30名以上 ウ 就職内定率 100%	ア・イ・ウの3指標のうち A 3指標すべてを達成 B 2指標を達成 C 1指標を達成 D 3指標とも達成できず	C、Dの場合、改善の検討を行う。	3月に集計する。		昨年度末に、朝学習(マナトレ)のまとめテストを実施し、2、3年次生にはこれまで学習してきた成果を級判定、到達度を示した。これによって、今年度の学習姿勢を刺激し、更なる基礎学力定着へと向かっている。 3年次生の進学希望者は、1学期より、補習(土曜含む)を受講開始している。加えて、夏季集中講座や個別添削指導を通して、進路希望実現へ向けて、学力を高めている。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析(成果と課題)と改善策等
2 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に向いでの活動等しっかりと挨拶ができるよう指導を行う。	生徒指導 各学年	【成果指標】 「自ら進んで挨拶ができる」と生徒・保護者・教員が評価する。	自ら進んで挨拶ができると回答した割合が80%以上であるのが、生徒・保護者・教員のうち A 3者とも80%以上 B 2者が80%以上 C 1者のみ80%以上 D 全て80%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒、保護者、教員)で調査する。	生徒 79.5% 保護者 85.5% 教員 82.1% B	登校指導や街頭指導では、しっかりと挨拶できる生徒は年々増えてきている。今年度も新型コロナウイルスの影響で、生徒会や運動部による朝の挨拶運動が十分に実施できていないものの、校舎内では部活動の生徒を中心にしっかりと挨拶しており、自発的な挨拶が浸透しつつある。 集会やホームルームでの指導だけではなく、日常の様々な場面で、教職員から生徒に対して積極的に挨拶したりコミュニケーションを図ることによって、生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、自ら進んで挨拶できるよう学校全体で取り組んでいく。
	② 交通安全教室や街頭指導等を通して、交通ルールを守る指導を行う。	生徒指導	【成果指標】 生徒は交通ルールを守って自転車に乗車している。	交通ルールを守って自転車に乗車していると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒)で調査する。	90.9% A	今年度はこれまでの間、交通安全教室(1年次生)、自転車ルール・マナー検定の実施、本校イーグル隊と能美署が協力しての交通安全運動など、様々な機会をとらえ、交通安全に対する意識の醸成を図ってきた。 しかし、6月までの警察による交通違反指導件数は13件と昨年の3件に比べ増加している。また交通事故件数も1件から5件と増加している。 今後、グッドマナーキャンペーンやPTAとの合同一斉指導の実施、街頭指導の充実などを通じて交通安全への意識を高めていきたい。
	③ 部活動を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	SCH (スーパー・コミュニティ・ハイスクール推進室)	【満足度指標】 生徒が部活動に主体的に取り組む努力することを通して、満足感や達成感を得る。	部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒)で調査する。	78.1% B	昨年度はコロナの影響で県総文・総体がなくなるなど、部活動に大きな制約がかかったが、今年度は大会が開催されたことから、評価が高くなっていると考えられる。昨年は中学3年生で最後の大会がなくなった1年次生(肯定的評価80.2%)や昨年前半に部活動のできなかった3年次生(肯定的評価80.4%)で特に高くなっている。2年次生は肯定的評価は73.6%にとどまっている。 生徒数減の影響で、部員数の少ない部が増えてきているが、普段の練習や大会での成果などで満足感が得られるよう、さらなる工夫を図っていきたい。
	④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	生徒指導	【努力指標】 いじめの未然防止に取り組み、発生時には迅速な対応をする。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(教員)で調査する。	92.3% B	1学期は2件のいじめを認知した。管理職、担任、学年団、生徒指導が連携し迅速に対応できた。現在のところ2件とも落ち着いているが、観察を行いながら注意深く見守っていく必要がある。 昨年の中間評価よりも改善したが、依然100%に達しなかった。校務運営委員会や職員会議を通じて、職員がいじめ未然防止や情報共有について徹底を図る。今後もいじめは必ずあるものと認識し、生徒への注意喚起を行うとともに、発生時には迅速かつ適切に対応する。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
3 SCH（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）として、地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	① 地元自治体の行事や社会貢献活動への参加など、地域と連携した活動をより推進する。	SCH 総務	【満足度指標】 生徒が地域の活動に積極的に参加し、その活動を通して生徒が満足感を得る。	地域の活動に参加する生徒の満足度の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	それぞれの活動後に生徒にアンケートをとる。	81.3% A 肯定的評価 1年次生 90.5% 2年次生 74.3% 3年次生 79.7%	1年次生で90.5%と非常に評価が高い。これは4月の遠足の際に、根上海岸で清掃活動を行ったためと考えられる。9月に2回目を予定しており、地域での活動を通じて、より高い達成感と満足感を感じて欲しい。 2、3年次生は依然コロナ禍のため、ボランティア活動などが実施できないため、満足感それほど高くないが、前年に比べると高くなっている。これはSCH（Super Community High school）という名前が生徒にも浸透して、地域の学校という意識が生徒の中に醸成しつつあるものと考えられる。
	② ホームページの更新や学年や各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	総務 SCH	【満足度指標】 本校の教育活動や取り組みに対する保護者の理解を得る。	広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）を通して、学校の取り組みがよくわかると回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(保護者)で調査する。	85.8% A	昨年度後期評価より7ポイント上昇し、A評価となった。昨年度に各分掌の担当者がホームページの更新およびメール配信を直接行うことができるシステムが構築され、学校からの発信が増えたことが要因の一つと考えられる。ホームページのアクセス数に関して、昨年は一昨年の約3.5倍になったが、現時点で、昨年同時期よりも増えており、関心の高さがうかがえる。 ホームページにおける学年行事等の掲載や各部活動の活動紹介等についてさらにきめ細やかに情報発信できるよう、一層の工夫が必要と考える。
	③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、学校業務の効率化を推進することで、勤務時間外の労働時間を削減する。	教頭 各課主任 学年主任	【成果指標】 全教員が業務の効率化に向けてタイムマネジメントの意識を高め、より一層の時間外勤務の削減を図る。	時間外勤務が月45時間以上であった教員の月平均人数が A 5人未満 B 10人未満 C 15人未満 D 15人以上	C、Dの場合、改善の検討を行う。	教員の勤務時間記録で調査する。	16.5人 D 4月～7月 調査	今年度、時間外勤務が月45時間以上であった教員の数は、4月19人（1人）、5月18人（1人）、6月18人（21人）、7月11人（19人）であった。（カッコ内は昨年同月の人数）昨年度の4、5月は学校休業のため、単純に比較することはできないが、6、7月を昨年度と比較してみると、人数は減少している。 教員が心身ともに健康な状態で教育活動を行うことが大切である。特定の教員に負担がかからないよう、管理職や主任が業務の進捗状況に気を配り、業務の平準化を図ることを心掛ける。